

# 自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 28, No. 4 神奈川県立生命の星・地球博物館 Dec. 2022



## 新たな外来種、 ムシャクロツバメシジミ

写真: KPM-NKA 31983\*

神奈川県小田原市

2022年7月18日 渡辺恭平 撮影

わたなべ きょうへい  
渡辺 恭平(学芸員)

※当館電子台帳上の資料番号はゼロを付加した  
6桁の数字で表記されます

ムシャクロツバメシジミ *Tongeia filicaudis* (Pryer, 1877) はシジミチョウの一種で、中国と台湾が原産地です。日本国内では2013年に愛知県で初めて確認された外来種で、園芸植物のセダム(マンネングサ類)を食べることが知られています。最近、本種が神奈川県内でも確認され、チョウの愛好家が分布や食草について調査を行っています。このチョウは道路脇や畑の土手など、ありふれた環境でも見られ、在来のシジミチョウであるヤマトシジミやツバメシジミと一緒に飛んでい

ます。本種は一見するとこれらのメスとよく似ているため紛らわしいですが、ヤマトシジミとは後翅裏面の後ろの方にオレンジ色の小さな斑紋があることや尾状突起をもつことで、ツバメシジミとは後翅の地色が灰色がかり、黒色紋が大きいことで区別できます。

本種は市街地も含め県内各地に食草が豊富にあることから、今後の分布拡大が予想されます。そう遠くない将来に、場所によっては普通種になるのではないかと危惧しています。